

志己「文芸」

この文章の始まりとして置いた単語を見て、読んで、あなたは何を思い浮かべただろうか。

文芸部、好きな本、好みの作品を作る著者、書店、図書館、本棚。一般的に思い浮かびそうな単語を並べてみたが、正直なところ、あなたが何を思い浮かべたかはあまり重要ではない。特別何も思い浮かばなかったとしても構わない。本当に何だっという。あなたにとつての「文芸」が何であれ、私も「文芸」も「文芸」の窮状も何一つ変わらないのだ。

己の志と書き、「シキ」と読むこの文章メディア『志己』は、どんな感情でどんな関わり方でも、身近にいる誰かのように、様々な文章と様々な関わりを持つ生活を広げることを目的としている。

文章は情報を伝達する手段の一つとして使われているが、残せる情報は文字だけでなく、必ずしも意図した通りに機能するものではない。書くにあたっても、読んで何かしらを理解しようとするにあたっても、大変な手間と努力を必要とする。「手も時間も脳も体力も、全部足りない」と日々嘆く程に、生活を成り立たせるために必要なことも、不満を訴える欲求も、常に積み上がり続けている現代では、手軽な娯楽を好む人々が増えていき、難解そうに見えるもの達への需要が低下していくのも自然な流れだろう。

文芸においてもそうである。様々な文章作品を扱い、作り手が「文芸」を目指した表現の一部、「文芸」として評価し、広く知らしめようとする動きとして、雑誌や団体が掲げて募る賞があるが、現在知られているほとんどの賞は、ライトノベルや文学作品と呼ばれる、物語作品を対象としている。「この文章作品はこの分野において素晴らしいものである」と掲げても、好む人々や注目する人々がいないれば、商業の面であれ、文化の面であれ、利益は大きくならない。利益が上らないまま運営し続けるのは、コストの面でも運営者の精神面でも無理がある。そうやって、発表や評価の機会がなくなっていく結果、書いても広まらず、読むうとしても見つからない現在の状況ができたのだろう。

様々な文章作品を総合して指す「文芸」の中で、少ない負荷で理解でき、楽しませることを主目的とした物語作品ばかりが目立つことになってしまった経緯には納得した。しかし、「文芸」をこの状態で停滞させることも、当然だが、エンターテインメントを提供することを目的としない「文芸」がより弱っていくのも、許容することはできない。

私が目指す「文芸」は、手軽な文章や楽しめる文章ばかりが望まれる、ある種の怠惰に浸かりきった世界にはないのだ。多様な文章が発信され、それらが広く受

上段 175mm*110mm

下段 175mm*110mm

け取られ、多様に評価され、洗練され、そしてまた発信されていく。この繋がりが単調に繰り返されるのではなく、繰り返しそのものも洗練されていく。そして、文章を読むという行為を楽しむだけでなく、文章との関わりを楽しむに至ってもまだ足りない。他者との関わりにおいてそうであるように、日々関わる文章に対しても、関心、あるいは無関心を意識的に選び、また、選んだ上でも自然と抱く感情を楽しみ、悩み、何かにぶつれたり、一人で抱え込んだり……。文章への関心を、生活の中にある手段の一つではなく、心を動かす関わりの一部として生きていく世界へ磨き上げていくことこそ、私の「文芸」への歩みの一つであり、『志己』で目指す生活の更に先にあると信じるものである。

ここまで「文芸」の窮状やそれに対する私の不満、『志己』を起こす動機を語ったが、これらに言及し、あなたに向けて語ったのは、ただ決意表明をするためではない。あなたを『志己』の一部として巻き込むためである。

巻き込むと言っても、編集などの作業への参加は求めていない。あなたに求めるのは、文章を書き、『志己』に寄稿していただくことであり、『志己』を読んで多様な文章に触れることであり、『志己』を広めていただくことであり……。つまりは、『志己』の枝葉となることである。『志己』はあなたの文章を発信する媒体、あるいはあなたに文章との関わりを与える媒体、あるいは文章について他者と語り合うきっかけとなり、あなたを支える幹や根である。そして、あなたは枝葉として『志己』を豊かに生かす。

もちろん、枝葉は一人で足りるはずもない。だが、一人であっても枝葉が存在しなくては始まらない。だから、あなたに呼びかけている。私と『志己』は今、あなたに向かって呼びかけている。どれだけ届くかは分からない。しかし、届いたのであれば、次への一步に難しいことはない。文章を書く、読む、伝える。できることから関わればいい。

ただ、書いた文章を『志己』に寄稿しようと思っただけなら、まずは別紙の「募集要項」を読んでいただきたい。文章との関わりをより良くする文章メディアとして、寄稿に関して定めた条件を記載している。それらを理解、了承の上で寄稿者となっていただけるのであれば、心より歓迎し、誠心誠意向き合おう。

最後になるが、私が『志己』を起こし、文章との関わりを変えようとするのは、あなたのためでも、文芸のためでもないことを誠実に宣言する。私一人が書いても、広めようとしても、変えようとしても、到底足りないのは確かな事実だ。だから、私は自身の「文芸」のために、あなたとあなたの文章を利用しようとしている。あなたも、あなたの目的のために、私と『志己』を利用してほしい。